ひな人形に囲まれて
抹茶をたしなむ来館者

ひな人形と優雅なひととき

下妻市ふるさと博物館企画展「第5回ひなに魅せられて」 2月26日

平成27年9月関東・東北豪雨の洪水被害から復旧し、再開された下妻市ふるさと博物館企画展「ひなに魅せられて」。今回で5回目を迎えました。館内には市民の手づくりのつるし雛や江戸時代から現代までのおひな様、動物をモチーフにしたひな人形など多彩な計120点が展示され、来館者の目を楽しませていました。

2月26日の「博物館のひなまつり」イベントには440人が来館。歌唱やバイオリン、ピアノの演奏、市内保育園児の合唱などが披露されました。エントランスホールでの抹茶のおもてなしではひな人形を眺めながら優雅なひとときを過ごす来館者の姿もありました。

浦安の潮風をあびながら快走

第26回東京ベイ浦安シティマラソンで市民交流 2月5日

平成24年4月に災害時の相互応援協定を結んだ縁からスポーツの市民交流を始めた浦安市と下妻市。今回で5回目の招待を受けた「第26回東京ベイ浦安シティマラソン」に本市から市民ランナー30人が参加しました。

下妻市民ランナーが挑戦したのは10キロとハーフマラソンの2部門。全国各地から参加した6,594人のランナーと共に潮風をあびながら新浦安地区の街並みを駆け抜けました。

橋本紀雄さん（鬼怒）は「誕生日にハーフの部で参加でき記念になった。海沿いを気持ちよく走れた。また来年も参加したい」と意気込みを話してくれました。

沿道の声援に応える下妻市民ランナー

早押し問題に集中する千代川中の選手たち

千代川中が健闘 いばらきっ子郷土検定

第4回いばらきっ子郷土検定県大会 2月4日

茨城県の子どもたちに郷土を愛する心の醸成を図ろうと、他県に先がけて平成25年度から県内全ての中学2年生を対象に実施されている「いばらきっ子郷土検定」。

歴史や地理、産業など本県にまつわる知識を競い合う第4回県大会が、水戸市の県民文化センターで開催され、下妻市代表として千代川中学校が出場しました。

千代川中学校チームは一度1回戦で敗退となりましたが、そこから敗者復活戦、準決勝戦を選手5人と応援する生徒たちが一丸となって戦い、見事決勝戦へ進出。優勝を目指して臨んだ決勝戦は接戦となり、1問差で惜しくも準優勝という結果になりました。

キャプテンの小林千紗さんは「一問入魂の気持ちで臨んだ。5人のチームワークは最高だった」と話し、チームメイトや応援団、先生たちに感謝の言葉をかけていました。

有料広告欄

迫力ある演奏「大町はやし保存会」

伝統芸能の祭典

下妻の民俗芸能フェスティバル 2月26日

下妻市伝統芸能保存会連合会の結成40周年を記念した「下妻の民俗芸能フェスティバル」が、下妻市文化会館で開催され、県内外から12団体が参加し、囃子や太鼓、舞などの伝統芸能が披露されました。

開会式で大塚武彦実行委員長は「笛太鼓の響きは体を活性化させるといわれている。モリモリと元気になっていってほしい」などとあいさつしました。

本市からは、巫女装束の子どもたちが舞う大宝八幡宮十二座神楽、大町はやし、平方はやし、道祖神祭りと高道祖はやしなどが披露され、会場からは惜しみない拍手が送られました。

オカリナの演奏を披露するステージ発表

生涯学習の成果披露

第17回公民館まつり 2月18日・19日

公民館や市民センターの各教室、生涯学習自主活動団体の成果を発表する「公民館まつり」。2月18日と19日の両日とも千代川公民館で開催され、延べ1,000人が訪れました。

展示やステージ発表を見るだけでなく、手編みや紙あそび、家庭料理教室など体験コーナーも催され、子どもから大人まで一緒に楽しむ場となりました。

オカリナ演奏のステージ発表を見学した60代女性からは「何か一つ楽器を弾けるようになりたいと思っていた。オカリナの音色は素朴だがきれいな音。挑戦してみたい気持ちになった」と話が聞けました。

有料広告欄

まちのわだい Town Topics

全日本中学選抜入りオーストラリア遠征へ

平成28年度日本中学校体育連盟バレーボール第二次選抜強化合宿及び海外派遣遠征参加

「染野輝（ひかる）選手」（皆葉）表敬訪問 2月16日

日本体育連盟バレーボール競技部から平成28年度第二次選抜強化合宿及び海外派遣遠征参加メンバーに選出された染野輝選手（皆葉在住・結城南中3年）が稲葉市長を表敬訪問しました。

染野選手は、茨城県代表選手として平成27年8月の第30回全国都道府県対抗中学バレーボール大会に参加し、茨城県最高記録のベスト8入りを果たした結果から同選抜メンバーに選出されました。全国各地から選出された男子メンバー12人は、2月20日～22日の海外遠征事前合宿と2月22日～3月2日にオーストラリアで開催される海外遠征試合に参加します。

初の海外遠征に向けて染野選手は「日本代表の自覚を持って一球一球を大切にし、全力でプレーしていきたい」と意気込みを語り、稲葉市長は「2020年東京オリンピックの日本代表入りを期待したい。体調には気を付けて海外遠征でさらに力をつけてきてほしい」と激励しました。

活躍を誓う握手
（右から稲葉市長、染野選手、須藤市議会議長）